2016年9月15日

＜東海テレビ　かわら版＞

平成 28 年『日本民間放送連盟賞』

３作品が優秀賞を受賞！

＜テレビ教養番組＞ 優秀賞
「人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり」

＜テレビCM部門＞ 優秀賞
「公共キャンペーンスポット／堀川、ヤバくない？」

＜特別表彰部門/放送と公共性＞ 優秀賞
「戦争を、考え続ける。」

東海テレビが制作したドキュメンタリー「人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり」が、日本民間放送連盟賞中央審査会において、テレビ番組部門・教養番組で優秀賞を受賞。さらに、テレビCM部門で「公共キャンペーン・スポット／堀川、ヤバくない？」が、また特別表彰部門・放送と公共性で「戦争を、考え続ける。」がそれぞれ優秀賞を受賞しました。

「人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり」は、7月に開かれた中部・北陸地区審査会のテレビ報道番組で審査員全員から満点と最も高い評価を受け、中央審査会において全国から選出された7作品の中から優秀賞に選ばれました。

尚、表彰式は、11 月 9 日（水）の民間放送全国大会で行われる予定です。

＜「人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり」作品の内容＞

90歳の建築家、津端修一さん（元広島大学教授、元日本住宅公団）と、87歳の妻、英子さんは、愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンに暮らしている。

津端さんは、戦後最大の都市計画ともいわれた「高蔵寺ニュータウン」の基本設計をした人物で、建築家の丹下健三やアントニン・レーモンドに師事した後、日本住宅公団の創設期の中心メンバーとして、激動の戦後日本の“住宅”、“団地”、“ニュータウン”を作り続けてきた。

津端夫妻は自ら設計をした高蔵寺に、完成当時から住み続けていて、約50年が経過した。その自宅では、50年前に植えた小さな苗木が、今では鬱蒼とした雑木林に成長し、枯葉をまいて土を耕し続けた畑では、年間を通じて約100種類もの野菜や果実が育っている。妻の英子さんは、外食はせず、コンビニで買い物はしない主義。畑で収穫した作物を使って、夫のために自慢の手料理を丁寧に作る日々を送る。英子さんは言う、「食は命」と。

ふたりが暮らす家は、尊敬するアントニン・レーモンドの自邸を模した、30畳一間、平屋建ての杉の丸太小屋。食事も仕事も睡眠も、ワンルームで過ごす機能的で快適な生活である。ふたりの暮らしぶりは、まるで現代の桃源郷のよう。

90歳と87歳、津端夫妻のモットーは「年を重ねるごとに美しくなる人生」。

番組のナレーションは、女優の樹木希林。70歳を超えても輝き続ける女性の代表格で、自らの人生の終末について、その発言が常に注目を集めている。

この番組は、建築家、津端修一さんと、妻の英子さん、ふたりの暮らしを追った“人生のものがたり”である。

＜（注）番組に出演されている方の年齢などは全て放送当日のものです＞

【番組タイトル】人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり
【放送日時】2016 年 3 月 20 日（日）16:00～17:25
【スタッフ】
プロデューサー：阿武野勝彦（東海テレビ）
ディレクター：伏原健之（東海テレビ）
【出演者】
ナレーション：樹木希林

以上